

## 第2回広幡小学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和5年4月21日（水）18時30分～19時40分

2 場 所 広幡コミュニティセンター ホール

3 出席者 （1）委員 17名

（2）事務局 教育指導部長 山口 玲子

学校教育課長 植木 修

学校教育課 適正規模適正配置推進主幹 森谷 純

学校教育課 適正規模適正配置推進室長 柴倉 和典

学校教育課 主事 渡邊 亮

学校教育課 学校教育専門員 岩倉 由美

4 内 容

（1）開会

（2）あいさつ （金谷恵一会長）

（3）自己紹介 （委員および事務局）

（4）協議

①会議録の承認について

②統合のあり方に関する意見について

③その他

（5）第3回協議会の開催日程について

（6）閉会

（4）協議について

（会 長） 初めに「会議録の承認について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

（会 長） 以上の説明について、質問はありますか。

《 質問なし 》

（会 長） 次に、「統合のあり方に関する意見について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

（会 長） それでは皆さんから意見などを出していただききたいと思います。いかがでしょうか。

（委 員） 第五中の意見書1番の（5）にもある通学に関してですが、子ども達が今の六中まで登下校するとなると距離があると思います。特に広幡だと田んぼがなく冬場は吹きさらしで歩いて登下校するのは大変だと思います。そのようなことからスクールバスがあればよいと思います。また、民家がまばらで登下校中に不審者が現れても地区の人の目が届かないところもあるので、防犯面を考えると登下校はスクールバスなどをお願いしたいと思います。

（事務局） スクールバスのご意見をいただきましたが、登下校のご心配はごもっともだ

と思います。本日もう一つ資料として地図をお手元にご用意しております。第六中学校を中心に広幡地区が全部入るような部分をコピーしてご用意しました。この地図で見ましても広幡地区はかなり広範囲であることが分かります。その中で子ども達がそれぞれの家から学校まで安全に通う、そしてまた安全に家に帰るということが必須のことになりますので、例えばスクールバスをどのように走らせるかなど、そのようなところを十分検討する必要があると考えております。1回目の会議でも申し上げましたが、具体的に例えばどういうバスを走らせるのか、どのような経路で走らせるのか、というところは統合準備委員会の方で細かく検討していくという予定でおりますので、この協議会からは、間違いなくスクールバスの運行は確保するべきというような意見として意見書に入れていただければと思います。

(会 長) なかなか手を挙げにくいかとも思いますが、一人ひとり何か一言ずつでもよいので発言してもらった方がよいかなと考えます。一言も言わないで後から後悔するということがないように、何か意見がありましたら出していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(委 員) すべてが新しくなるという発想ですよね。例えば校歌も新しく作って、新たな学校が発足するというイメージですよね。あと何年か後には統合するというタイミングがあると思いますが、小学校ですので制服はないと思いますが、例えば体操着はどの辺りから動き出すのでしょうか。新たな学校がスタートしてから変更となるのか、統合する時期が分かっているのでその何年か前から新しく動き出すのか。途中で買い替えるとなると普通はどうなんでしょうか。4年生や5年生ぐらいで成長に合わせて買い替えとなれば、そこまで気にしなくともよいのかもしれませんが、そのような準備が事前にできるのであれば、そのようなことも考えてもよいのかなという気がします。

(委 員) 私はPTAをしていたのが30年弱前ぐらいですが、そのような立場の中で、広井郷の広幡・塩井・六郷については前から繋がりがあって私達も小学校からですが対抗試合などをしていました。そのようなことから小学校は地域の特色ある学校という感じで捉えておりまして、そこに地域との連携を持ちながら統合小学校になっていくと思っています。例えば広幡であればスキーでジャンプをしたりといろいろやってきたと思いますし、塩井や六郷もそれぞれの地域の伝統的な委員会などあって子ども達と接したりする機会も多くありました。その辺について一番は地域から小学校がなくなると地域の方々が寂しいというか、子ども達との繋がりを継続していきたいという想いもあると思いますので、子ども達が地域を知るとか、いろいろ何かを発見するとか、そういった機会を教育の中で取り入れていただければ、地域の方々との結びつきというか地域に愛着が出てくるのかなと考えますのでお願いしたいと思います。

(事務局) 3地区が1つに集まって、統合小学校を1つの学校としてスタートするといったときに、今までですと例えば広幡だと、広幡地区にある広幡小学校の中で地域の人にも育てられながら子ども達が成長していったということがあったと思います。今回3つの地区が1つになることで学区が広くなるとも考えられるかなと思います。自分の学校には3つの地区があるということで、もちろん広幡から来る子ども達も広幡のことを勉強しますし、六郷のこと、塩井のこと、それぞれの地域の学習ということが可能になっていくのではないかと思います。ただ、今まで各地区で学校と密着して取り組んでいたものを、統合後の学校にすべて取り入れていくことは難しいところがあると思っています。そこについては地元代表者協議会の後の統合準備委員会の中で、どういったものを取り入れていくかということについて協議していく必要があります。この4月から三沢東部小と三沢西部小が西部小に統合しまして、子ども達が西部小学校に通ってきていますが、三沢地区や田沢地区との関わりが途切れるわけではなくて、西部小学区が広がったということで、西部小としても三沢地区や田沢地区に行ったりなどそういった学習を考えております。具体的にどの事業を取り入れていくのかということについては、これからまた時間をかけて精査していくということになりますが、統合したところの地域のことだけでなく、広く地域のことを知りながら地域の中で育ててもらい、広井郷については3地区になりますので、自分が住んでいる地区だけではなく隣の地区のことも勉強できるというような、視野が広がるような学習も期待できるかと思っています。

(委員) 五中学区の意見書1・2・3番、5番については、基本的にはそうしていただくのが当然のような内容だとは思ったところですが、改めて書き出すということであれば、1・2・3番、5番あたりは盛り込んでいただきたいと思います。

(委員) 私も交通安全協会の指導者という立場にありますので、子ども達の安全確保という観点からすると子供たちの登下校、これはしっかりと対応していただきたいと感じています。それと開校時には子ども達がいろいろ点在するわけですが、年数が経てば卒業する、また新たに入学する、今回限りのことではないというのは当然教育委員会でも十分ご承知のこととは思いますが、その節目の辺りに、スクールバスに乗る子ども達の乗る場所がいろいろと変化していくという状況も当然出てくるわけです。その辺を今回限りとしなくて、継続的にやはり地区の方々や保護者の方々の意見を聞くなどして不安の解消を図っていくということは、ぜひお願いしたいと思っています。

(委員) 私も子どもが8歳、5歳、0歳ということで、今後の統合について深く関わってくると思っております。これまであったように通学に関しては気になっているところがありました。また、こちらの資料にもありましたが、良い雰囲気

づくりや環境づくりはもちろん必要だと思います。統合後の児童の心のケアやメンタルのフォローという部分も対応していただければと思います。

(委 員) 途中から3地区が統合になることで、前回の会議のときもあったと思いますが、学校で段階的にサポートや交流をしていただき、子ども達が慣れてから一緒にすることができるように、それがスムーズに行えるように、仲良くなれるように、いろんなことを考えていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(委 員) スポーツ少年団の話ですが、六郷小の子ども達の一部が広幡小の少年団に入ってもらったりしている中で、広幡小のサッカー部が全体的に人数が減ってしまい今回川西のチームと合同になったりするような話も聞きました。バトミントンに関しても、この3地区以外の子ども達も多く入っていただいているようですし、塩井小に関してはスキーが盛んに行われているようです。統合後ということになるかもしれませんが、この3地区で今お話ししたスキーであったり、サッカーであったり、バトミントンであったり、また、広幡には今ないのですが陸上であったりなどを、バランスよくやっていけるような形になっていけばよいかなと思いました。

(委 員) 私は先ほどもご意見があったように、例えば、3年生から全員の子どもが一緒に、4年生から一緒に、ということを考慮して心の準備などもしながら新しい学校に臨めるように、きちんと準備をしていただきたいと思います。私が一番気になっていることは登下校です。統合後の学区はすごく広くて、今広幡小学校の子ども達は歩きですが、一番遠い下小菅の子どもですと2キロぐらい、あと成島にある神社の先の子どもは2キロ以上あると思います。スクールバスということになれば便利にはなるかもしれませんが、スクールバスも一戸一戸から拾ってくるわけではないので。子供たちもある程度高学年までバランスよくいればよいのですが、例えば低学年の子しかいない場合など、そういうところが若干不安なところもあったりしますので、年度ごとに違いは出てくるとは思いますが、その辺も丁寧に対応していただければありがたいと思います。

(委 員) 大人も不安なところは実際ありますが、子ども達が一番不安かだと思いますのでうまくいって欲しいなと思います。それと学童の件ですが、今各地区の方が準備に向けて動いておられるようですけども、統合までの期間がある中でどう一緒に動いて統合の時にどうなっていくのかということが気になっているところ です。

(事務局) 今、学童のお話が出されて、学校教育課の所管ではないのですが現時点で承知している範囲でご説明できるところをお話しさせていただきます。3地区の学童クラブの連名で、市長と教育長宛に新しい統合小学校の施設に学童ク

ラブを公設という形で設置して欲しいという要望をいただきました。運営は公営ではなくて、3地区の学童クラブさんの合同といいますか、主体は現在の学童クラブが主体となって運営するという形式だと思うのですが、そういった形のご要望をいただいております。市としては、ご要望に沿えるような方向で検討を進めていくこととしております。具体的には、子育て支援の関係から福祉部門、学校施設になりますので学校施設を担当している教育総務課、また、学校運営との兼ね合いということで学校教育課も一緒になって、どのような形だと新しい学校施設の中で実現できるのかという検討を進めていくことになると思います。施設管理上、例えば建築基準法や消防法などといった様々な影響も考えられますので、どのような設備や施設が必要になるのかというところから1つ1つ検討していく必要があると考えておりますし、検討していかなければならない課題を洗い出して進めていくことになるかと思っております。まずは要望を受けて動き出しているということをご承知いただければと思います。

(委 員) 統合小学校は、今現在の六中の校舎を使用するわけですが、六中の校舎というのは教科型の校舎になっていて、それを小学生が使うとなるとどの程度の改修が必要なのか、小学校として同じような学習をするのは難しいかなと思っています。また、どのような小学校の名前になるのかなというののもちょっと楽しみといいますか、地区の方から募集して投票で決めたりしたら、みんなでする小学校という感じがしてなんか楽しいじゃないかなと思います。

(委 員) 私も皆さんおっしゃっているように、やはりスクールバスの件が一番気になります。今、私の娘は5年生ですが家は成島の端の方です。正直なところ、今でもすでに遠いなと思いながら通わせています。高学年になってきたので大分よいのですが、低学年の頃は本当に毎日通わせるのは非常に不安だなと思いながら通わせていました。体力はつくかもしれませんが、登下校が非常に不安だなというふうに思いながら通わせていましたので、その部分が一番大きく気になっているところです。あとは、学童クラブの保護者会の立場からになりますが、先ほどお話あった学童クラブの要望を出しているという話は前回も聞いておりました。それは公設民営という形になると思うのですが、要望書はぜひ通って欲しいなというように強く思います。子ども達のことを考えると、近いところに学童クラブがあるというのは便利ですし保護者としても非常に安心感がありますので公設民営でやっていただきたいなと強く思います。

(委 員) 統合が子ども達にとってもマイナスになってはいけませんので、その点は十分考えていただきたいと思っておりますし、やはり様々な課題もあると思っておりますのでその辺はぜひ検討いただきたいと思っております。それと学童の件ですがいろいろ今お話が出ていますけども、学童が現六中の統合小学校にいきますと、やはり設備の整備面であったり運用面であったり様々な課題がでると思っております。そうい

った中でやはり小学校教育の環境と学童クラブ環境の間にどうしても反するようなどころも出てくるかと思いますので、そういったところを子ども達にとって、最大化になるようにいろいろな面で考えていただきたいなと思いますので、その点はぜひよろしくお願いしたいと思います。

(委員) 意見というよりも質問ですが、今までいろいろな小学校が統合してきたと思いますけど、だいたい統合のあり方については、意見書の(1)から(5)が基本的なことだと思います。そこで、それに対して似たような質問や意見が出ていると思いますが、今まで統合を進めてきた中で良い雰囲気づくりとか環境づくりというのは具体的にどのような対応をしてきたかというのが1点です。もう1つは、統合等が終わってからの小学校における不具合こうすればよかったという失敗の事例などで教育委員会に報告等がされているものはあるのでしょうか。それとも小学校に対応をお願いしているという感じになっているのかということをお聞きしたいと思います。

(事務局) より良い雰囲気づくりや環境づくりという部分については、子ども達が学校生活を過ごしやすい、また心のケアということも考慮しまして、統合する場合には教育支援員を任用して配置しております。例えば、スクールバスなどで通ってくる子ども達へのフォローをしたりとか、教室に入ってから不安に感じているような子を支えてくれたりとか、そのような対応を支援員を配置しながら子ども達が安心して過ごせるような環境づくりをしてきております。また、今回は、元々中学校の校舎を小学校として使いますので、六中の校舎で大丈夫ですかというようなお話もいただきましたが、今回は特に小学生が使うという整理もしなくてはいけないと思っています。六中ですと、階段はそれほど高くないため十分小学生でも上がれる感じかなと思いますが、例えば、水屋の高さなど、そういった部分についてはやはり小学校の低学年でも使えるような工夫をしなければいけないと考えております。担当は教育総務課になりますが、学校教育課としても担当課と十分協議をして小学生にとっても使いやすく安心して過ごせる場になるよう環境づくりをしていく必要があると考えています。また、統合した後の失敗例というようなことですが、例えば、先ほど申し上げたような地域の行事をどう取り入れていくかとなったときに、統合のスタート時点までにはその協議が終了していなくて、引き続き検討していくということになったということはあります。子ども達の不安については、交流の中で最大限の準備をしてきました。新しい校舎に来て学習をする、その交流した友達がいるということで不安の解消に努めてきたところです。西部小の場合はスタートしたばかりですが、これまでの関小と南原小、関根小と松川小という場合を考えても、教員がミニアンケートや面談などのフォローをしながら、子ども達は楽しく生き活きと馴染んで学校生活が送れていると思っています。登下校時

にはスクールバスやジャンボタクシーを利用していますが、実際に松川小から話を聞いたところ、タクシーの運転手さんにとっても仲良くなって、運転手さんからも面倒を見てもらいながら登下校しているという話もあります。特にここが大失敗だというような話は聞こえてこないですし、もし何か不安なことがあれば、その都度、学校と教育委員会で協議をしながら対応しておりますので、これからの統合に関してもそのように進めていきたいと考えているところです。

(事務局) 少し補足させていただきます。令和２年度に松川小校長として勤務しておりました。令和３年度の４月から関根小が統合になるという１年前からの１年間でしたが、関根小との交流を続けながら統合の受入校として松川小の子ども達とどのように１年間過ごすかというところを考えてきました。取組んできたこととしては、学校あるいは学校だよりを学校間で交換して、それぞれの学校の様子を先生はもちろん、子ども達も知るという取組みや、学校の中に関根小コーナーを作って関根小のことを知ることができる取組みも行っていました。今回、西部小学校も三沢東部小と三沢西部小の紹介コーナーを学校の中に作るなどして、それぞれの学校を知るという取組を行っていたようでした。これまでは大きい学校に統合するという形だったのですが、今回は３つの学校が一緒になって新たな学校を開校するということになりますので、アプローチについてはもう少し違うやり方もあるのかなと思っています。それぞれお互いを知るという活動はその環境を整えるという意味ではとても大切ですし、雰囲気づくりというところからすると友達になる下準備という点で相手を知ることがあった方がよいかなと思います。松川小学校はその当時、創立２８年、関根小は、創立１４５年でした。その歴史の長さや重みなど松川小の子ども達たちは関根小の歴史にまず驚いたりしながら、そのような歴史がある学校が閉じて自分達の学校にくるということの背景を子ども達なりに考えて、松川小でどんな生活をしていくかということそれぞれの学年なりに考えていた思い出しました。また、失敗ではないのですが少々悔やまれたのは、コロナ禍で保護者間の交流ができなかったということをＰＴＡの役員の方を中心に本当はやりたかったというようなお話はずっとしていました。

(委員) 統合のあり方については、皆さんからいろいろ出していただきましたので、私からは別な点を２つ伺いたいと思います。ひとつ目は、今３つの小学校それぞれで給食を作っていると思いますが、今の六中には給食施設がないためどのようにしていくのか、給食のセンターを今の六中に造っていくのかということ伺いたいと思います。それと、今の六中にはプールがありませんので、水泳の授業などをどうしていくのか気になっています。

(事務局) まず給食の件ですが、給食は学校には必須のものになりますので、この度、基本的に中学校を対象にした給食共同調理場を六中のグラウンドの一角に整備す

るという方向で進めております。当然、同じ敷地内にある統合小学校にも同じようにそこから給食を提供したいということで準備をしております。共同調理場には栄養教諭等が常時配置になりますし、様々な形で小学校の子ども達と給食を題材にしていろんなやりとりができるのではないかなということで、検討していくことにしております。

(事務局) プールにつきましては前回も話題になったと思います。確かに六中の現在の校舎にはプールの施設がありませんので、それをどのように対応していくかということについては、施設を担当する教育総務課とも連携しながら考えていかなければいけないと思っていますところ。本日はそこまでしか申し上げられないというのが現状です。

(委員) 皆さんのお話をお聞きして、まずは一人ひとりの子ども達が安心して統合小学校で生活・学習ができるように、統合するまでの間に一体何ができるのかということを考えておりました。今までの大きい学校に小さい学校が入っていくという形とは全く違いますので、それぞれの学校の子ども達が一緒に何か学んで一緒に楽しかったなというような経験を、統合小学校ができる前に何か経験できればみんなと学ぶことは楽しいなというようなことが感じられるのかなと考えているところです。そのためには、ある程度三つの学校は距離がありますのでオンラインなどを使って交流することもできると思いますが、実際に顔を合わせて活動をするというような場を保障できるように、バスでの移動ということも考えながら、教育委員会とも相談しながらしていかななくてはならないと考えていたところでした。

(会長) ありがとうございます。いろいろ皆さんの意見を聞いたわけですが、子ども達がいかに安全に通学できるかという点について一番関心があって、あとは新しい学校でどのように子ども達が馴染んでいくか、その部分が大事なのかなと思いました。ただ、毎年、子どもが減っている状態の中で、本当にいなくなっているわけですが、今年は3名しか入学者がいませんでした。そういった中で、通学については、たとえ学校が近くても低学年の子がひとりで通学となるとなかなか難しいことになるので、やはりスクールバスやタクシーなどを使った対応は必要になってくるのかなということは感じております。ただ、ずっと同じ人数ということはないので、きちんとそういうことも考えていただきたいというふうに思いました。それと私も学童の運営委員をしておりますので、以前も申し上げましたが、学童については市で頑張っていたらというのは聞いておまして、あとは運営する側がやはりそれぞれの地区で委員会などを作って任意団体としてやっておりますけれども、どうなるかは現状分かりませんが、おそらく運営にあたってそれぞれ役員が出て関わるというようなことだと思います。準備も大変なことで短期間に場所を移動するっていうのもな



かなか大変です。やはり市からの指導も受けながら学童については検討してやっていくしかないかなと思います。その他、これまで出された意見の他に何かありましたらお願いします。

(委 員) 一点確認です。給食のことですが、グラウンドの一部に今回の統合する学校のためだけに給食センターを建てるのでしょうか。

(事務局) 今、中学校は親子給食を採用してまして、六中の場合は塩井小学校から配送しています。親子で作っている給食を統合によって最終的に中学校は3つになる中学校へ配送することになりますと、中学校1校当たりの生徒数がかなり多くなるという課題が出てきます。そのため現在の形を変更し、共同調理場で中学校の給食を作って各学校に親子と同様に配送するという形で進めているところです。その共同調理場を設置する場所を六中の敷地の一角にするということで進めていますが、その場合、共同調理場の目の前に統合小学校があということになりますので、そこから中学校に加えて統合小学校の給食も提供するということです。

(会 長) 他に何かありますか。やはり地区との関係が薄まるのではという不安などは皆さんもお持ちかと思います。地区運動会やスポ小を今後どうしていくのかということなども引き続き皆さんと話し合っていく必要があると思いますので、よろしく願いいたします。その他、委員の皆さんからなければ統合のあり方に関する意見については以上でよろしいでしょうか。

次に「(3) その他」について、説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会 長) 質問はいかがでしょうか。なければ以上で協議を終了します。